

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

近年、過疎高齢化の進行、若年層の流出、地場産業の衰退、環境問題等、さまざまな問題が深刻化している。「平成の大合併」が各地で進む中、平成17年10月11日紀北町が誕生した。全国的に地域自立への移行を推進する情勢の中、財政的に緊迫した当地域においても、行政中心のまちづくりでは限界があり、住民が主体的に自分たちの地域の将来について考え、守り、行動を起こすことが必要となってきた。

そこで、本法人では地域住民に対して活躍の場を創出し、地域内外との交流を生み出す取り組みや集客につながる事業プランの立案・計画・実施をし、地域経済効果を生み出す取り組みを行う。また、地域住民及び当地域への来訪者を対象とした参加型体験プログラムの企画・運営や、集客支援活動及び環境保全活動などを事業として展開する。

地域住民の手による地域資源『人・自然・歴史・文化』の持つ可能性を活かした体験を通じて地域の魅力を伝え、地域住民、来訪者共に当地域を大切な「ふるさと」と感じるまちづくりをすすめていく。

こうした地域の活性化のための活動を実施するにあたり、更に地元地域との連携を深め組織的基盤を確立するため、また公益性、透明性を高めて多くの方に認知、信頼していただくため、特定非営利活動法人という選択を行うことにした。

本法人は地域住民の活力により地域内外との交流を展開し、地域の活性化に寄与することを目的とし、あわせて私たちを取りまく環境を守る取り組みを推進していきたいと考えている。

2 申請に至るまでの経過

豊かな自然が残る魅力あふれた町として、旧海山町は交流産業を地域振興の柱に位置づけ、さまざまな行政施策のもとに事業を展開し、集客交流、及び地域活性化につながる事業として発展させてきている。また、平成16年7月には「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され、熊野古道に多くの観光客が訪れるようになる。

このような背景の中で、何度もこの地を訪れていただける魅力をつくり出すためには、地域の人々の手による集客交流事業をさらに発展させ、すすめることが重要であると考え。地域資源（人・自然・歴史・文化）の持つ可能性を最大限に引き出し、また、熊野古道との連携をより強くすることにより、地域振興が見出せると考えている。

私たちはこれまでもそれぞれ関連分野で地域活性化のための活動を実施してきたが、更に地域住民との連携をより強めつつ、地域住民が積極的に参加する「地域と熊野古道をむすぶ活動」「地域の達人による活動」「宿泊型施設支援事業」「環境保全活動事業」を通じて、地域住民による地域の活性化に寄与することを目的とし活動を実施していくため、この申請に至った。

平成18年4月14日

特定非営利活動法人 ふるさと企画舎
設立代表者
氏名 田上 至

